



疑問：間接疑問



疑問：間接疑問：解説

① 基本

ある疑問文を丸ごと他の文の中で①目的語や②主語あるいは③補語として間接話法¹で用いたい場合には、**間接疑問** (indirect question) へと書き換える。

普通の疑問文から間接疑問 (= 間接話法の疑問文) へと書き換えるには、疑問詞²部分は残して残りの部分を**平叙文の語順に戻す**。例えば「When was he born? (彼はいつ生まれましたか?)」という疑問文は以下のように間接疑問文へと書き換えて用いることができる：

平叙文	He was born on July 4. 彼は7月4日に生まれた。
↓	
Yes/No疑問文	Was he born on July 4? <small>※be動詞を文頭へ移動。</small> 彼は7月4日に生まれましたか?
↓	
疑問詞疑問文	When was he born? 彼はいつ生まれましたか?
↓	
間接疑問節	… when <u>he was born</u> <small>※be動詞が元の位置に戻り、平叙文と同じ語順に戻る。</small> 彼がいつ生まれたのか…

①目的語 (～を) に使用	②主語 (～は) に使用	③補語 (～です) に使用
We don't know <u>when he was born</u> .	<u>When he was born</u> is not known to us.	The question for us is <u>when he was born</u> .
彼がいつ生まれたのか…を我々は知らない。	彼がいつ生まれたのか…は我々に知られていない。	我々にとっての問題は、彼がいつ生まれたのか…です。

例えば上の①のケースであれば、「We don't know his birthday. (我々は彼の誕生日を知らない。)」という平叙文の目的語の部分において、「When was he born? (彼はいつ生まれましたか?)」という疑問文を間接疑問に書き換えたものを用いると「We don't know when he was born. (我々は彼がいつ生まれたのかを知らない。)」という文になる。

¹ある人の発言を文章中で表現する際に、直接話法がそれをカギ括弧 (「…」) やクォーテーションマーク (“…”) などの引用符で囲ってそのまま用いるのに対し、間接話法は書き手の立場からその内容を間接的に述べる。例えば、直接話法の「彼は『君は何色が好きなの?』と私に言った。(He said to me, “When color do you like?”)」を間接話法に書き換えると「彼は、私が何色が好きかを、私に尋ねた。(He asked me what color I liked.)」になる。

²疑問文で疑問を表す語のこと。疑問代名詞whatや疑問副詞when、疑問形容詞whichなど。

② 疑問詞部分が2語以上の場合

疑問形容詞which (どの～) や疑問代名詞の所有格whose (だれの～)、疑問副詞how (どのくらい～) が他の語とセットになって主語や目的語や補語を形成している場合は、それらも**疑問詞とセットで節頭に残す**。

Which color does Tom like?	トムは、 <u>どの色を</u> 、好みますか？
We don't know <u>which color</u> Tom likes. (×We don't know <u>which</u> Tom likes <u>color</u> .)	どの色をトムが好むかを、我々は知らぬ。
Whose father is Tom?	トムは、 <u>誰の父親</u> ですか？
We don't know <u>whose father</u> Tom is. (×We don't know <u>whose</u> Tom is <u>father</u> .)	トムが誰の父親かを、我々は知らぬ。

③ 元の疑問文が主語の部分をつねる場合

元が**主語の部分をつねる疑問文**の場合、間接疑問を作る際には語順変化させる必要は無く、**そのまま**で間接疑問節として使える。

平叙文	Mr. Hiraishi teaches mathematics.	平石先生が数学を教えます。
↓		
疑問詞	Who teaches mathematics?	誰が 数学を教えますか？
↓		
間接疑問	... who teaches mathematics <small>☞無変化。</small>	誰が数学を教えるのか…
↓		
目的語	We don't know <u>who teaches mathematics</u> .	誰が数学を教えるのか…を私達は知らない。

④ Yes/Noで解答不可能な疑問文内において間接疑問を使う場合

Do you <u>know</u> what he teaches ? 彼が何を教えているか <u>知ってる</u> ？	Yes, I do. はい (知ってます)。
	No, I don't. いいえ (知りません)。
What do you <u>think</u> he teaches ? (×Do you think what he teaches?) 彼が何を教えていると <u>思う</u> ？	I think he teaches mathematics. 数学を教えていると思うよ。

間接疑問が**Yes/No**で解答できない疑問文の中で使われている場合は、疑問詞句を節頭ではなく**文頭まで移動**する。

5 疑問詞＋不定詞の書き換え

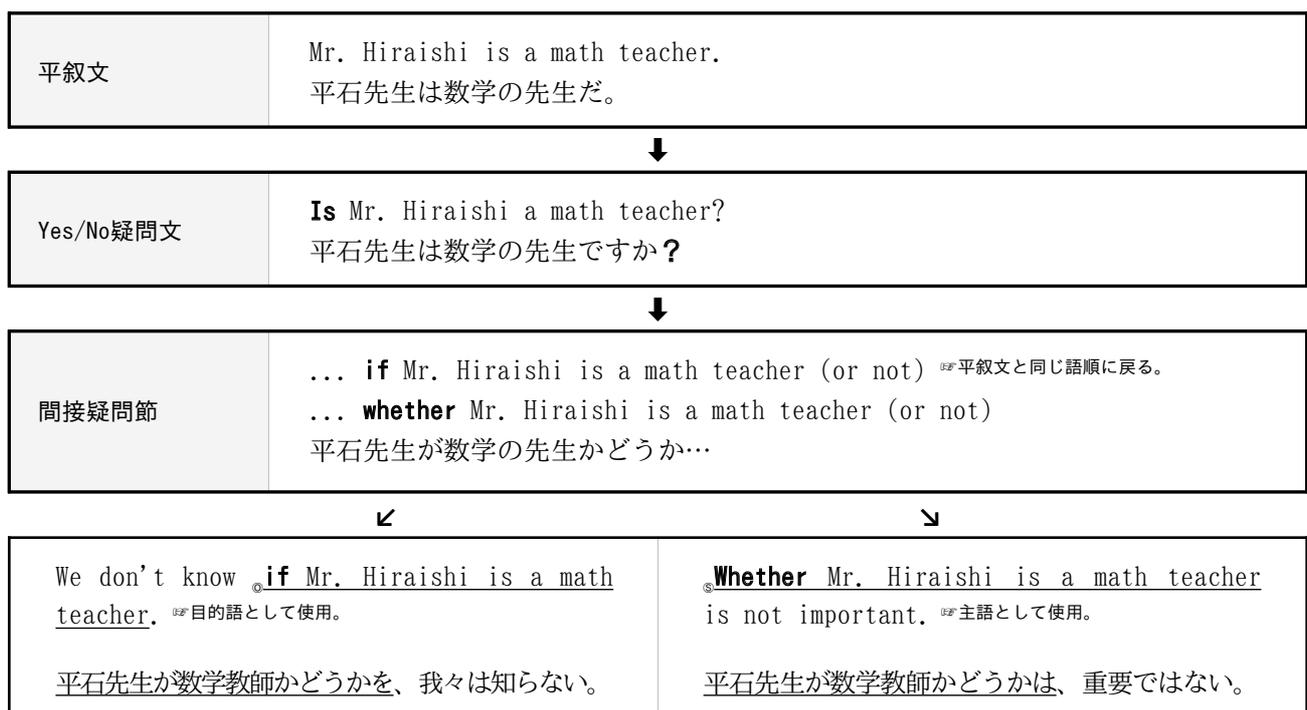
I don't know what to study . 私は何を勉強したらよいかわからない。	→	I don't know what I should study . 私は何を勉強すべきかわからない。
He doesn't know when to start . 彼はいつ始めたらよいかわかってない。	→	He doesn't know when he should start . 彼はいつ始めるべきかわかってない。

疑問詞＋不定詞句は、should（～すべき）を使った間接疑問節に書き換えることができる。疑問詞＋不定詞句を間接疑問節に書き換える際は、間接疑問節内の主語を何にするかに注意。詳細は「疑問詞＋不定詞への書換」プリントを参照。

6 間接疑問のifとwhether

❖ if <主語> <動詞> or not : <主語>が<動詞>するかどうか (を…) ㊦「or not」は省略可。	
❖ ^{ホエザァ} whether <主語> <動詞> or not : <主語>が<動詞>するかどうか (を/は/です…) ㊦「or not」は省略可。	
❖ whether or not <主語> <動詞> : <主語>が<動詞>するかどうか (を/は/です…) ㊦「or not」は前置可。	
We don't know <u>if Mr. Hiraishi is a math teacher or not</u> .	平石先生が <u>数学教師かどうかを</u> 、我々は知らない。
We don't know <u>whether Mr. Hiraishi is a math teacher or not</u> .	
We don't know <u>whether or not Mr. Hiraishi is a math teacher or not</u> .	

if³は、条件の接続詞として以外にも、「～かどうか」を意味する間接疑問（＝Yes/No疑問文をそのまま間接話法にした間接疑問）を作るのに用いることができる。この用法のifは接続詞whetherで書き換えができる。



³このifは条件の副詞節ではなく「～かどうか」の意味の名詞節なので助動詞willが使用可。

ただし、以下のケースではifは使えずwhetherのみしか使えないので注意：

(A) **or not**を前置する場合

I don't know **whether** or not this is true.
 (×I don't know **if** or not this is true.)
 これが正しいかどうか私にはわからない。

(B) **主語や補語になる場合**

I think he is a nice person, but **whether** I like him or not is another story.
 (×I think he is a nice person, but **if** I like him or not is another story.)
 彼は良い人だと思うけど、しかし好きかどうかはまた別の話だ。

(C) **疑問詞＋不定詞の形になる場合**

I can't decide **whether** to postpone or (to) cancel it.
 (≒whether/if I should postpone or cancel it)
 (×I can't decide **if** to postpone or (to) cancel it.)
 それを延期すべきか取りやめるべきか決めかねている。

(D) **前置詞の目的語になる場合**

Don't worry about **whether** he is interested or not.
 (×Don't worry about **if** he is interested or not.)
 彼が興味を持っているかどうかは気にしないで。

(E) **譲歩^{じょうほ}の副詞節 (whether <主語> <動詞>= <主語>が<動詞>しようとしなかりうと) を作る場合⁴**

Japan is becoming a multi-cultural society **whether** she⁵ likes it or not.
 (×Japan is becoming a multi-cultural society **if** she likes it or not.)
 日本は、好むと好まざるとにかかわらず、多文化社会へ向かっている。

⁴この場合は間接疑問の名詞節ではなく副詞節になるのでwillは使用不可。例：We will go on a picnic tomorrow whether it rains or not. (雨が降ろうと降るまいと、明日はピクニックに行くつもりだ。) 詳細は複合関係詞のプリントを参照。

⁵国名を受ける代名詞には「she」を使う。(日本語でも祖国を「母」国という。)